

情報連絡員報告総括表（令和2年7月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況					
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化			
製 造 業	食料品			4	1	3		4			3	1			4		1	3		1	3		4			1	3			
	繊維工業			3	1	1	1	3			3			1	2		1	2		1	2		3				3			
	木材・木製品			1	1				1			1			1			1			1		1				1			
	紙・紙加工品			2		1	1	1	1		2				2	1	1				2		2				2			
	印刷			1		1		1				1			1			1			1		1				1			
	化学・ゴム																													
	窯業・土石製品			3	2	1		3			3			1	2		2	1		2	1		3				3			
	鉄鋼・金属			1		1		1			1				1		1				1		1				1			
	一般機器			3	2	1		2	1		2	1			3		1	2		1	2		2	1			3			
	電気機器			1			1		1		1				1			1			1		1				1			
	輸送機器			1			1	1			1				1			1			1			1			1			
	その他																													
小計			20	7	9	4		16	4		16	4		2	18	1	7	12		5	15		18	2		1	19			
非 製 造 業	卸売業			2		1	1		2			2			2		1	1	X			2				2				
	小売業	1	5			4	2	1	5			4	2		2	4		3		3			6			2	4			
	商店街			1			1		1			1			1			1						1			1			
	サービス業		1	4	X	X	X	X		5			4	1		1	4			2	3			4	1		2	3		
	建設業		3	1								4			3	1		3		1		3	1			4			3	1
	運輸業	1										1			1		1						1				1		1	
	その他			1					1		1				1			1					1				1			
小計	1	5	14		5	4	1	18	1	15	5	1	6	13		10	10		5	15		18	2	1	7	12				
合計	1	5	34	7	14	8	1	34	5	31	9	1	8	31	1	17	22		5	15		36	4	1	8	31				

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和元年7月～令和2年7月)

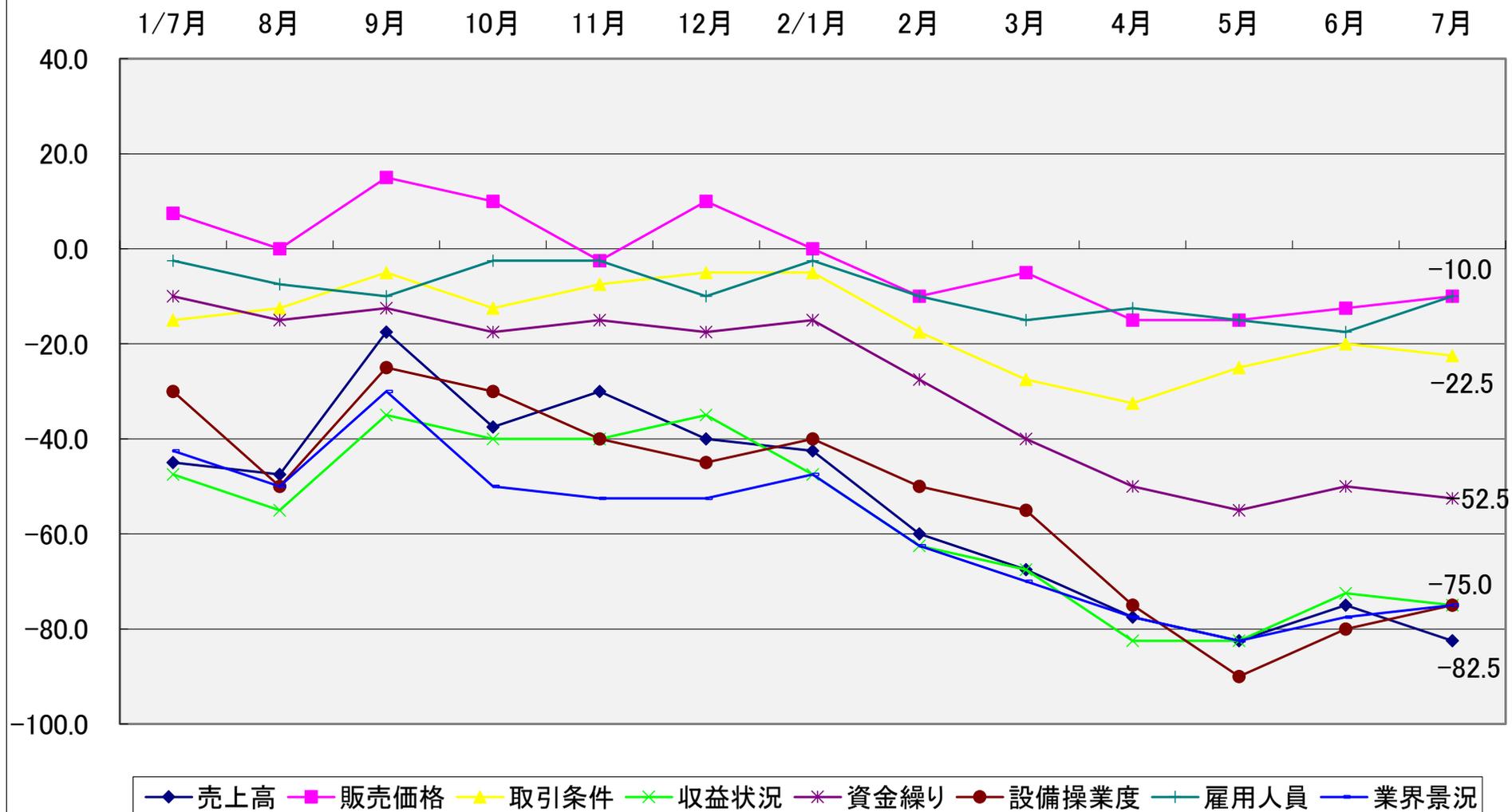
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40 名

	1/7月	8月	9月	10月	11月	12月	2/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	増減
売上高	-45.0	-47.5	-17.5	-37.5	-30.0	-40.0	-42.5	-60.0	-67.5	-77.5	-82.5	-75.0	-82.5	-7.5
販売価格	7.5	0.0	15.0	10.0	-2.5	10.0	0.0	-10.0	-5.0	-15.0	-15.0	-12.5	-10.0	2.5
取引条件	-15.0	-12.5	-5.0	-12.5	-7.5	-5.0	-5.0	-17.5	-27.5	-32.5	-25.0	-20.0	-22.5	-2.5
収益状況	-47.5	-55.0	-35.0	-40.0	-40.0	-35.0	-47.5	-62.5	-67.5	-82.5	-82.5	-72.5	-75.0	-2.5
資金繰り	-10.0	-15.0	-12.5	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-27.5	-40.0	-50.0	-55.0	-50.0	-52.5	-2.5
設備操業度	-30.0	-50.0	-25.0	-30.0	-40.0	-45.0	-40.0	-50.0	-55.0	-75.0	-90.0	-80.0	-75.0	5.0
雇用人員	-2.5	-7.5	-10.0	-2.5	-2.5	-10.0	-2.5	-10.0	-15.0	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	7.5
業界景況	-42.5	-50.0	-30.0	-50.0	-52.5	-52.5	-47.5	-62.5	-70.0	-77.5	-82.5	-77.5	-75.0	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油味噌	コロナウイルスの影響で変わらず売上が低調のまま戻らない。特に業務用は不調である。外食は1,000店超が閉鎖の記事を見てショックを受けた。Go Toトラベルキャンペーンでさらに増え、大半は慎重になっていて、売上は悪い。当組合と子会社は無利子融資3,000万円ずつを借入した。会議も書面かりモートのままである。回復を祈る。
	豆腐	新型コロナウイルスの影響で外食産業への食材(豆腐油揚げ)の納品は減少したままである。
	製麺	7月度は少しは戻りつつあるが、コロナウイルス感染症の第2波が広がっていて、まだまだ売上が戻る事はないかと思う中、それぞれの事業者もコロナに負けず、乗り切っていきたいと思う。
繊維工業	組紐	先行きの不透明さが不安である。一次、二次問屋の動きはない。前売に関しては催事等の依頼はあるが、大阪、名古屋、東京等になるため、アテンドの不安があり動けない状態である。
	衣料縫製	アパレル業界は現在も売上が7割程度しか戻っておらず、マスク等の製造で現状を推移している。
	テントシート	多業種にコロナの影響があり、当業界も受注が徐々に減ってきている。
木材・木製品	木材	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で需要の減少により各製材工場は減産体制となっている。
紙・紙加工品	紙器段ボール	コロナ感染症の影響と、7月後半の4連休で稼働日が減少し、生産量はマイナスである。自動車、工業関係も先月よりは、少し生産量が増加してきたがマイナス幅はまだ大きい。長梅雨の影響で農産物の取れ高も減少し、段ボールケースの取り扱いも少ない。会員企業間で差はあるが、売上高は5～30%前年同月対比でマイナスである。
	古紙	7月期の古紙仕入量は：段ボール・約96±7%位、新聞、チラシ・約88±12%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約92±9%位の模様。三重県方面は古紙輸出価格の低迷とコロナ景気下落などによる古紙の販売不振で古紙持ち去り減少により新聞・雑誌古紙の一部入荷が戻ってきているものの全国的には、世代がわりやスマホ生活で発生が激減し、回収形態も三密回避対策等で中止も多々発生している。製紙会社様の生産はコロナによる大幅減産の様で原料の消費に結びつかない。本来はオリンピックだったが、衣食住等全てやり直し、引き延ばして難儀しており国民総生産の効果的な増加に結び付かず、後世に付けを残す国債や紙幣の増発と金融緩和が更なる2極化や不平等を生みそうである。無料回収所の不法投棄は増え古紙持ち去りは無くなり、レジ袋有料化による万引き増加により警察は更に激務の様と思う。
印刷	印刷	ようやく動きかけたイベント等の受注が中止や再検討になっている。元々閑散期でもあり、非常に深刻な業況である。
	伊賀焼	当会館における来館者数、陶芸教室の参加者は徐々にではあるが、元に戻りつつある。しかし今後のイベント、催し物等の中止や延期が続いているため、組合員(窯元)の売上は減少している。また、再び全国のコロナ感染者数が増加傾向にあるため、先が見えず予断を許さない状況が続いている。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の業況はやはり新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからず、自動車業界の不振、それらに関わる関連部品の製造が大きく関与し、売上、利益両方共減少傾向にある。建築関連部品、機械関連部品等の殆どが減少に転じた。資金繰りが若干悪くなったという企業も見られた。半導体関連では、在庫調整で若干減少したものの、今後も伸びが期待される。
一般機器	四日市	コロナウイルス感染症の第2波により、経済環境は悪化の一途である。先の見えない状況の中で、次の手段を打ってゆかなければならない。
	津市	6月と同様に売上は昨年と比べると約30%減である。製品もバラつきがあり、売上が戻ってきている物と戻ってきていない物がある。T社では生産が回復したという情報もあるが、それ以外はまだまだである。8月は夏季休暇が1週間程あるが、さらに2～3日の休業予定である。各社とも当分の間、残業を禁止している。
	伊勢	収束に向かっていた新型コロナウイルスに感染拡大が広がり始め、業界は更に悪くなった感じがする。先行きは見えず、来年末までは回復を見込めない事を覚悟している。
電気機器	鳥羽	受発注が減少した状態が7月中も続き、先の見通し、現状が見えない。固定費を回収するのが必死の状態である。
輸送機器	鈴鹿	この数ヶ月間は本来の3～4割減の売上で推移しているが、9月以降の内示数には回復の兆しが見受けられる。7月までは毎週金曜日を休業していた取引先も、8月の夏季休暇明けからは本来の稼働に戻すとのことであった、が、直近の“第2波”の影響が懸念される。
	青果	野菜前半：長雨と日照不足が青果の生育に不安定で全体的に高値傾向は当分続きそうである。白ねぎが主要産地の九州が豪雨被害のため価格が高い。じゃがいもも高値が続く。北海道産の大根は安定価格である。野菜後半：生育状況が悪く、入荷も少ないため全体的に価格は高いが、じゃがいも、人参は北海道産の入荷が始まり、価格が下落してきた。トマト、ミニトマトは平年並みである。果物前半：桃は例年より作況が悪く高値で雨で傷みが多い。すいかは石川、愛知産から長野産に切り替わり始めた。高地栽培で寒暖差が大きいので甘みが強い。果物後半：多彩な品種のズッキーニ、貴陽、サマーエンジェルと美味しいが、皮に少し酸味がある。山形産大粒のデラウェアは例年並みの入荷。地場産梨の入荷も増えてきた。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
小売業	自転車	“自転車屋を殺すのに刃物はいらぬ。雨の三日も降ればいい”と言われているが、今年も7月程、身に染みた月はなかった。コロナ禍と天候不良のダブルパンチで販売、修理の両面において苦しい月であった。COVID-19の災い転じて福となる形で自転車の有用性が見直されたが、雨をちぎってでも自転車に乗ろうと思う人は少ないだろう。業界としては、自転車に乗る時の雨対策をもっと考えるべきである。日本人は欧米人に比べて、雨に弱いようである。
	電器	7月に入り、エアコンを中心とした季節商品の販売が苦戦傾向になって来た。長引く梅雨の影響もあり販売は前年を大きく下回る。また、例年7月に個展催事を実施する店が多かったが、本年は6月終了のキャッシュレスキャンペーンに対応し仕掛けを1ヶ月早くした店が多く、7月の催事は前年より少ない実施であった影響もでた。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、7月は前年2桁ダウンで終了した。4月からの累計でも2桁に近いダウンである。新型コロナウイルス対応関連の空気清浄機等は、メーカーにより格差はあるが品切れ・品薄の状況が続いている。この状況は今後もしばらく続く感がある。7月は非常に厳しい販売で終わった。厳しいが梅雨明けの8月に期待したい。
	石油	7月の中東原油価格は前月同様40\$台で落ち着いているが元売り価格の上昇につられ店頭看板価も上昇気味である。前半は新型コロナウイルスの発生数も落ちつき、ガソリン等の販売量も70%代まで回復しさらにGO Toキャンペーンによる旅行からのガソリン等の消費が期待されてきたが、県内でも後半次々とコロナウイルス感染症が発生しており、再度の移動自粛から回復気味であった消費が落ち込むことは必至である。長かった梅雨も明け、8月に入り感染症の発生が減り、夏休みやお盆の帰省移動による燃料消費の伸びることを期待する。
	スポーツ	6月から各学校が正常に戻り、少しづつではあるが外商ビジネスは動き出した。弱いながらも野球、サッカー、陸上等、グラウンドでの競技は動いているようであるが、内向きの協議品やスポーツウェアの競技用品の動きは悪いようである。早く世の中が正常に戻り、努力が報いられる社会になってもらいたいと思う。
商店街	熊野市	7月に入り、感染者数の減少から前半は売上等も戻りつつあったが、それでも昨年に比べての売上対比はまだまだ厳しい状況。月の後半に入り、感染者数が増えるにつれ売上の減少もみられ、観光客の多い飲食店等では、要請がないにも関わらず、お盆過ぎまで自主休業する店が出始めている。
サービス業	旅館	県下の殆どの施設は5月中休業、6月より営業再開して2ヶ月目に入って徐々に予約も回復してきていた。それでも7月の実績は昨年の40~50%程度の施設が多かった。しかし高単価、小規模施設等は昨年の実績を超えていて全体的には、個人客中心で団体客は全くないため、団体客の比率の多い大型旅館の稼働率はなかなか上がらない。学生旅行に対する補助に期待している。
	測量	仕事柄、コロナウイルス感染の可能性は少なく作業には影響なし。公共事業の受注は各社例年並みである。民間に関しては減少のみである。
	警備	例年の梅雨時よりも今年は期間も長く、降雨量も多く、コロナよりも雨降りによる受注が減少したものの、業者側もこの時期を利用して道路の草刈り作業を実施したため、大きな受注減少にはならなかった。
建設業	内装工事業	7月は対前年同月比で大幅なマイナスとなった。6月まではコロナウイルスの影響はみられなかったが、とうとう悪い方向になってしまった。県内も感染者が増加傾向にあるので非常に不安である。
	水道工事業 (亀山)	個人経営で高齢であるため、今期いっばいで退会の申し出があった。後継者がいる会社は良いが、今後数年で脱退する会社が出る見込みである。新規加入も見込めず、現状維持での組合運営の検討が急務である。
運輸業	トラック	燃料価格は先月に続き上昇となった。新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言以降、製造業、卸売業とも始めて企業活動に改善の兆しが見られたため運送業においても6月は輸送量が増加に転じた。しかし、ここに来て新型コロナウイルス感染症の第2波の影響が出始めていることから、予断を許さない状況になりつつある。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	8月の伊勢うどんの試食会は中止にする。
繊維工場	衣料縫製	ものづくり補助金の条件で、賃金3%アップを取り除いてほしい。
一般機器	四日市	経済活動にブレーキをかける。そのためには保証(給付金の供給)が必要な事だが、国の動きは見られない。
小売	スポーツ	資金繰りはそれぞれコロナ対策の融資を受けているようである。持続化給付金を各組合員は申請して補助金を支給されているようである。
サービス業	旅館	Go ToトラベルキャンペーンにV字回復を期待したがスタートのタイミング、その他の要因で現在は期待外れであったが、現在の状況から判断すると、更に長期化は避けられないようで、県、市、町との取組みを地道に推進して、当面の目標を前年の50%回復にしている。
	測量	会員の半数は、後継者がいない状態で現状維持も難しい状況である。